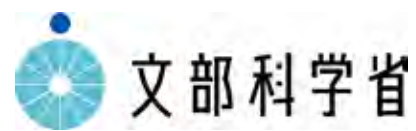




見直す つなげる 変わる 地域で、世界へ



この冊子は、文部科学省ユネスコ活動費補助金
「グローバル人材の育成に向けたESDの推進事業」
の補助を受けて作成しています。

発行：横浜市教育委員会

編集協力：永田 佳之（聖心女子大学 教授） 佐藤 真久（東京都市大学 教授）
大関 泰裕（横浜市立大学 教授） 金馬 国晴（横浜国立大学 准教授）
津野 宏（横浜国立大学 准教授） 中川 隆政（生活科教育研究会 副会長）
住田 昌治（横浜市立永田台小学校 校長）

問い合わせ：指導部指導企画課

Eメールアドレス：ky-esd@city.yokohama.jp

2017年3月発行



横浜市教育委員会

「ESD」って耳にするようになっていませんか？

この冊子は、カリキュラムデザインと学校運営をESD※の視点で捉え直すことで、子どもも先生も生き生きと学習や教育活動に取り組めることを目的としています。



もくじ

P. 3 ▶ 11

スタートESD

ESDの視点で授業づくりや学校運営を考えてみましょう

P.12 ▶ 13

つながりますESD

大学や行政、NGO／NPO、企業とつながってみましょう

P.14 ▶ 29

ESD推進校の取組

ESDをどの学校でもできるヒントを探しましょう

P.30 ▶ 35

もっとESD

ESDを詳しく調べてみましょう

※ESDは、Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

ESDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、自然や社会に関わる様々な地球規模の課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと（Think Globally, Act Locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

ESDは、環境、経済、社会、文化の側面から、統合的に捉えることが大切です。

【文部科学省 資料より作成】

ESDで大切なのは、私たちが持続可能な未来を創っていくにはどうするかを考えることです。

持続可能な未来について、身近な学校のことから考えてみましょう。

カリキュラムデザインで

- （例）●学習の深まりが物足りない？ ●遠足の行き先を学習に合わせて変えた方がよい？
●地域のよさを知る機会にできないかな？ ●世界的な課題は、子どもには難しい？

学校運営で

- （例）●教材づくりの時間がつくりにくい？ ●地域のイベントは来年もあるのだろうか？
●まちの先生がなかなか見つからない？ ●部活動の指導者が来年はいない？

主体的・協働的で実現可能な 授業づくり、学校づくり

横浜では、カリキュラムデザインと学校運営の両面で、さらに学校が活性化するためにESDの充実をめざしています。

カリキュラム デザイン

各学校の特色や取組を
ESDの視点で捉え直す

学校運営

ESDの視点を加えることで、単元づくりや
教材づくりの充実

- 教科等や『横浜の時間』の充実
- 教科横断的な学年暦や年間指導計画等の見直し
- テーマに沿った単元や教材づくり
- 子どもが身に付けたい資質・能力、態度の明確化

P.6・7へ

- 「ESD＝環境教育」だけといませんか？
- 「ESD＝『横浜の時間』」だけといませんか？
- 学習内容が、教科等を超えた取組になっていますか？

子どもも先生もさらに活気付ける学校全
体での取組

- 地域と連携した学校の取組の推進
- 学校が地域と共に創る「未来遺産(レガシー)」
- 教職員の対話の機会を増やす工夫
- 負担軽減のための工夫

P.8・9へ

- 働きやすい職場環境になっていますか？
- 行事や部活動に負担感はありませんか？
- 外部講師・地域人材に頼りすぎていませんか？
- 校内で取り組んでいる人に任せきりにしていませんか？

ESDを考える、キーワード



ユネスコのESDの会議でも次の言葉で、この4つのキーワードが重要だとしています

ESDを充実させる4つのレンズ

UNESCO2012

- **批判的なレンズ 「見直す」**
課題の再設定・捉えなおし、意味づけ、問いを持つ
- **統合的なレンズ 「つなげる」**
課題・資源・時間・空間をつなげる、関連づける
- **変容的なレンズ 「変わる」**
個人の変容、組織の変容、社会の変容
- **文脈的なレンズ 「地域で、世界へ」**
身近な文脈、世界の文脈、歴史や文化の文脈

このメガネを
かいかえながら
見ていくことが
大切です。

見直す

授業や普段の生活を見直してみましょう。
学校や地域を見直してみましょう。

変わる

個人が変わると社会が変わり、社会が変われば個人も変わります。
授業が、学校が、子どもや社会が、どんな変容をするか考えてみましょう。

つなげる

材と材、教科と教科、教職員同士、学校と地域など、人・こと・ものをつなげてみましょう。

地域で、世界へ

身近なことは、世界のことに広げてみましょう。世界のことは、身近なことにつなげて、掘り下げてみましょう。

教科等で

例えばできる…
こんなこと

小2生活

野菜づくりの学習 花壇の野菜栽培を、JAや地域の農家とつなげて、専門家が長年続けている技からヒントを学ぶ

小6社会

諸外国の学習 日本の他国への技術援助による成果と課題から、その国の生活や資源の問題を考える

中3理科

科学技術の利用の学習 様々な資料を見るだけでなく、身近な生活での発見や地域での取組を調べる

高校地学基礎

地震学の学習 プレート移動と地震発生のメカニズムの学習から、震源タイプ別の避難想定を考える

学校全体で「人権」などの学びのテーマを決めて、それを各教科、各学級に合わせてできる工夫に取り組むと、学校全体でのESDの実践になります。

(例) 小学4年 「ecoな暮らし」

- 1組：国語：説明文をもとにした生活の見直し
2組：社会：身の回りのリデュース探し
3組：算数：折れ線グラフで表現

(例) 中学1年 持続可能な生産と消費

社会科では、世界の諸地域
道徳では、持続可能な社会づくり
技術・家庭科では、消費生活と環境

※学びのテーマ例 防災、持続可能な生産と消費、生物多様性、気候変動、国際理解、人権…

『横浜の時間』で

例えばできる…
こんなこと

- 商店街や地域コミュニティーバスなどがもっと利用されるようにするには…
- まちの中の危険箇所を調べ、地域の人と一緒に安全MAPを作成するには…
- 学校の池の生き物を調べ、種類を増やしたり水をきれいにしたりするには…
- 地域の公園の花壇をデザインし、土木事務所や公園愛護会の方などいっしょに植え替えや広報に協力すると…

ESDの視点を加えると、学校やまちの未来に残したい「未来遺産（レガシー）」を地域といっしょにつくりあげていくことができます

中学校では様々な地域や専門家との学習や活動が展開されています。それを単発で終わらせるのではなく、複数回のかかわりや**地球規模の課題など**でつなげて振り返ることで、学びの充実を図っていくことができます。

「防災」を「災害と命」に、「水資源」を「水と生活」というように、単一の熟語でなく内容等の『かけ算』で表現してESDの視点で考えるなど、多様なテーマや言葉をつなげていくことで、学びが一層広がっていきます。

子どもが課題を設定し、地域や専門家と調査活動をして、振り返る探究的な学習にしましょう。

ホールスクールアプローチで 子どもも先生も元気に!

カリキュラムや授業を見直すために、学校のさらなる活性化のために学校全体で校務の見直しや地域との連携などを見直してみましよう。



- 学校の特色を見直す、変える
- 地域とのつながりを見直す、変える
- 続けてきていることを見直す、つなげる
- 教職員間の関係性や役割を見直す、つなげる、変える

自分たちの守りたいもの、続けたいことは、持続可能ですか? ちょっとしたアイデアはありませんか?

- 職員室を明るい雰囲気にするには? ● 校内に緑を増やすには? ● 給食を残さなくするには? ● 楽しく部活に参加するには? ● 子どものアイデアを取り入れるには?

いきなりハードルを上げず、できるところから効率化し、負担を軽減できることはないかを考える。

例えば・・・

- 職員室に全教職員が見られる伝言板や休憩コーナーを設ける
- 部活動休養日や閉庁期間を意図的に設ける
- 会議や研修をワークショップやワールドカフェ※など、参加型にする

※カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、4～5人単位の小グループで話し合ったり、グループを超えて意見交換したりします。自分の意見を否定されず、尊重されるという安心な環境で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝え合う

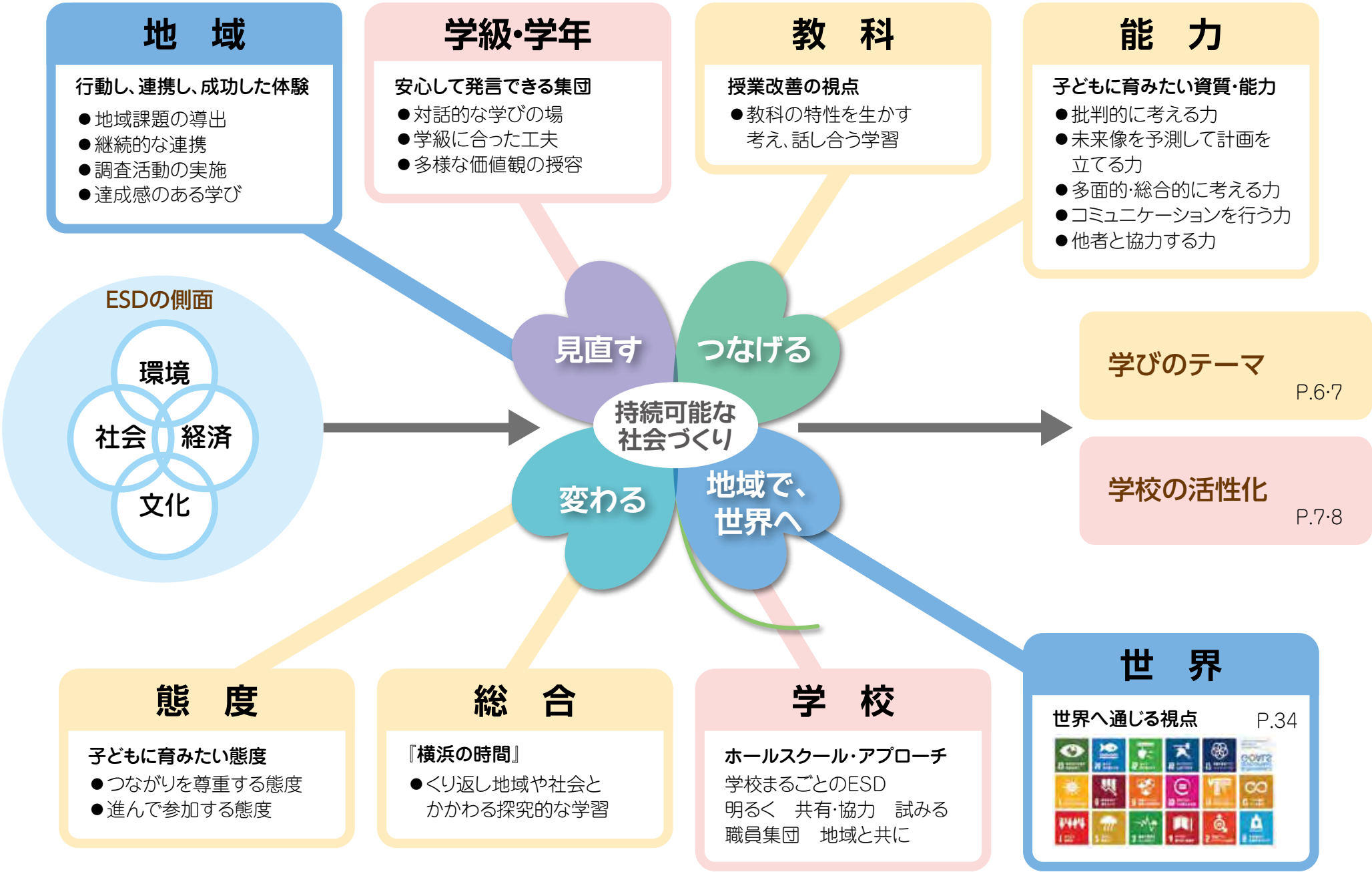
地域や関係機関とのつながりを見直し、中期学校経営方針などにも反映させたり、自分の担える役割を考えたりしてみましょう。

明るく元気な学校を実現するために、行動してくれる教職員が、より活躍しやすいように環境を整え、支えるリーダーの役割が重要です。サーバントリーダーシップも、ESDの一つのアプローチです。

ESDでは、自己変容が社会変容につながることを大切にしています。

例えば・・・

- 教師の意識が変われば、子どもが変わる
- 校長の意識が変われば、教職員が変わる
- 学校が変われば、家庭や地域が変わる



ESD全体像の例

カリキュラムデザインでは「教科と総合」のバランス、学校運営では「学級・学年と学校」のバランス、さらに「地域と世界」のバランスなどを意識して構成するようにしていきます。その際、「環境」「経済」「社会」「文化」の側面からもカリキュラムデザインや学校運営を考えることで、学びのテーマに迫ったり、学校の活性化を図ったりします。

※国立教育政策研究所のESDにおける能力・態度や構成概念の例や、SDGsなども参考にしてみましょう。⇒P34,35参照

あなたが考える学びのテーマは？
学校の活性化は？

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

防災、環境…。出前授業を活用してみましょう

地域の人材と共に、大学の研究者や企業、行政なども活用しましょう。



大学

- 分野を超えたつながりをつくれる研究者がたくさんいます。

行政

横浜市環境創造局

- 子どもたちが自然にふれ、環境について学び、考える機会を数多く提供していきます。環境教育出前講座
- こども「いきいき」生き物調査
- こども「エコ活。」大作戦
- 所管施設の見学、体験学習プログラム

温暖化対策統括本部や総務局危機管理課など、横浜市の各部局が協力します。

企業

横浜市資源リサイクル事業協同組合

- 環境絵日記&絵日記展を開催しています。平成12年に横浜市内の小学生を対象に始まり、毎年2万作品を超える応募数となりました。
- 絵日記展には毎年7千人の市民の皆さんが参加されています。
- 環境絵日記が学習ツールとして活用されている事例も多くなっています。



世界につながるNGO／NPO等とつながってみましょう

持続可能な社会を創ることは、地球はかけがえがないことを知り、限りある自然資源をわかち合うことです。



NGO／NPO

WWFジャパン

WWFは、地球温暖化・森林破壊など現場での最新課題に取り組み、「地球1個分の暮らし」のアクションを呼びかけています。



★低学年向けの教材・ワークショップから、中高生向けの資料まで、用意しています。



国際機関

JICA横浜

JICA横浜では、国際協力や異文化への興味を促し、日本と世界のつながりに気付くことを目指した訪問プログラムを実施しています。



全ての横浜市立学校でESDの理念に基づく教育が広まっていくように、横浜市と大学、NGO／NPO、企業等が連携してコンソーシアムをつくりました。

【構成団体】横浜市教育委員会 横浜市各部局 横浜市立大学 横浜国立大学 聖心女子大学 東京都市大学
WWFジャパン JICAプラザよこはま 横浜市リサイクル事業協同組合 (2016年4月)

ESD推進校をモデルに

ESDの視点を入れたカリキュラムデザインと学校運営の見直しで、
ESDの浸透と実践の充実のモデルとなる取組に臨む学校です。

カリキュラムデザイン

学校運営

ESDの視点で見直す多面的・
総合的な教育課程の編成

ESDの視点で見直す学校運営

【具体的な取組例】

- 地域の課題・消費・国際理解・防災・環境などを材として、環境・経済・社会・文化を統合的に捉えて取り組む。
- 専門家や外部機関、地域と、協働的・継続的にかかわって充実を図る。
- 持続可能を視点にした教材の工夫や資質・能力の整理をする。
- 持続可能性でつないだクロスカリキュラム(学年暦や年間指導計画等)を工夫する。
- 学校全体で持続可能性での見直しに臨む。
- 校務の共有や負担軽減の取組に臨む。

自分の学校をESDの視点で見直してみると、
どんなことができそうですか？

ユネスコスクールって、何？

ESDの推進拠点として、ユネスコから
認定を受けた学校です。世界中のユネ
スコスクールとネットワークを組んで、
地球規模の課題を考えたり、つながり
をつくったりしています。

国際理解教育と 社会貢献活動の 推進

横浜市立東高等学校



※ユネスコスクール申請中

国際理解教育と社会貢献活動を推進すること

- 帰国生や留学生と交流する中で異文化への理解を深めた
- 国連国際学校の国際学生会議への積極的な参加をした
- 社会貢献の意識を持ち、地域行事に部活や個人で参加した
- 海外の高校との交流へ(インターネット等を利用した会議等)
- 近隣の小学校や中学校と部活動や行事等で交流の充実へ

1982年から受け入れ
ている「帰国生発表
会」の実施



※国連国際学校学生会議(UNIS/UN)に
毎年生徒を派遣



地域貢献活動の充実
高校生が参加する地域防災訓練

ユネスコスクール

「学ぶ」「働く」「生きる」ことを、
キャリア教育とESDの
視点でつなぎ、
実践的な態度につなげる

✓
横浜市立市ヶ尾中学校

ユネスコスクールとして、ESDの視点を重視する教育活動を展開することにより、人格の発達や自律心、判断力、責任感などの人間性を育むとともに、他人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「かかわり」「つながり」を尊重できる個人を育みます

- ユネスコスクールとして様々な教育活動において望ましい生き方についての理解を深める
- 平和学習や道徳、福祉体験学習、人権特設授業等を通じ、多様性や人権を尊重する心を育む
- 地域行事に積極的に参加し、地域の方々とふれあう



ユネスコスクール

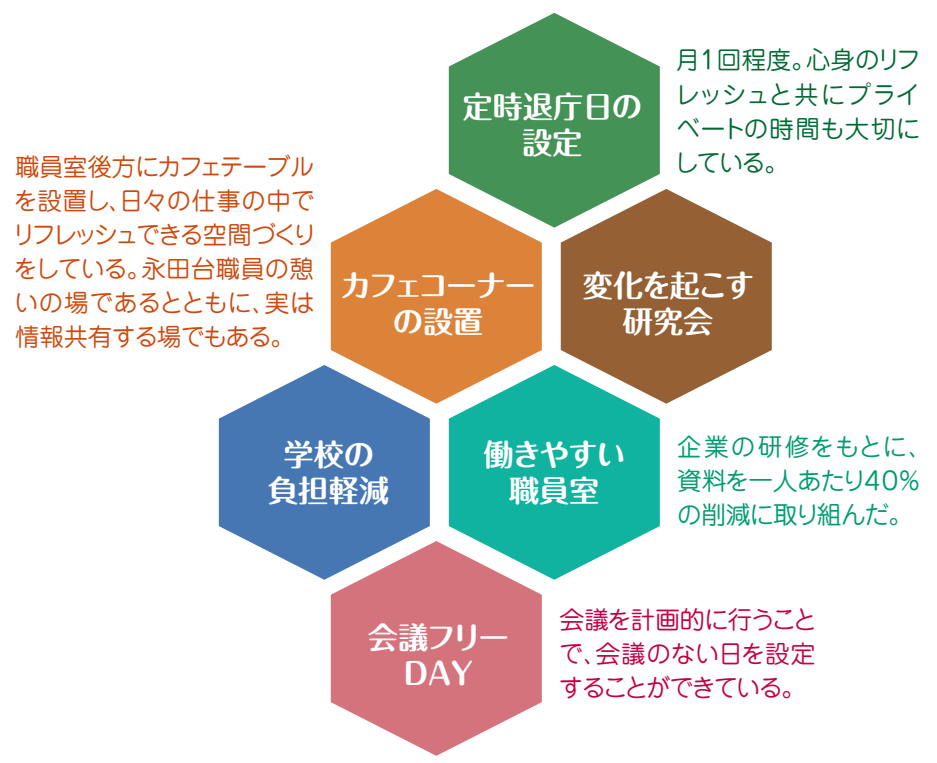
学校まるごとESD
ホールスクール
アプローチ



- 2016年にサステナブルスクール※に認定
- ※ユネスコスクールに限ることなく、ESDに取り組む学校がESDをさらに深め、また地域や他の学校との連携をもたらすことを目標として全国で24校が選ばれています。
- オーストラリアのモンミア小学校との交流を通して、オーストラリアの学校文化を学んでいる。自己紹介カードや手紙の交換をしたり文化を伝えあったりしている。
- ブラジルのジョセフィーナ・デ・メーロ校に手紙を渡した。ブラジルの学校文化を中心に今後交流を深めていく。

ESDの基盤をケア(自分へのケア・他者へのケア・環境へのケア)におく。枠や型にとらわれず、つながり合って、チャレンジを続けている

- 授業デザイン
A4 1枚で「こんな子どもになってほしい」(変容)を表す
- 校務リニューアル
先生たちが元気に働きやすい環境づくりを大切にする
- ふらっとタイム
隣のクラスや他の学年のクラスをケアの視点で見回り、見守る

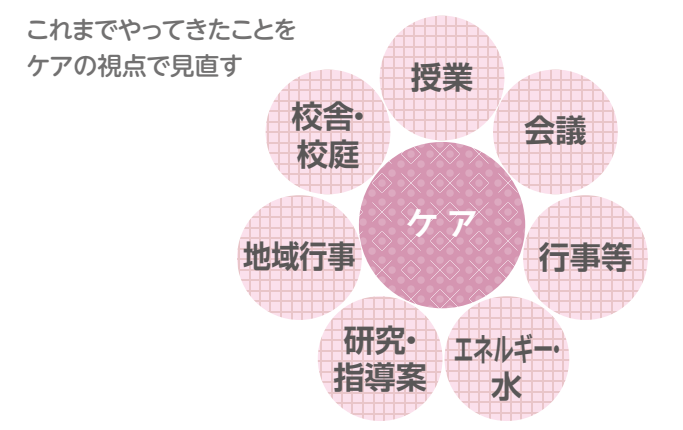


団地のためにできることを、協働していきます。「つながり祭」

「円たくん」(円形ホワイトボード)を使って、考えを共有しています

エコプロダクツに参加し、自分の言葉で語りかけます

地域の祭りに参加して、もりあげていきます



ユネスコスクール

自分が動けば、
未来が変わる



- 日本語スピーチコンテスト各国優勝
高校生との交流(異文化理解・共生)
- 熊本市の小学校との交流(防災)
- 三菱アジア絵日記
フェスタ各国優勝者
との交流(異文化理
解・共生)



- 社会創りへの参画意識と主体的な学び
- 全学級、『横浜の時間』・生活科を通した取組(学級総合)
 - 学校教育目標、中期学校経営方針とリンクしたホールスクールアプローチ
 - 地域のESD拠点としてのコミュニティ・スクール(保護者・地域との共通理解)
 - サステナブルマップ制作(スクールマップからコミュニティマップへ)

自分たちの学校や活動が、世界とつながっていることを意識し、プライドと責任を感じている子どもが多い。



- 横浜駅近隣にある高島水際線公園や横浜港湾空港技術調査事務所での海を見直す活動
- 地域防災拠点づくりを通した地域との協働活動
- 中央市場・地元の店・商店街と協働する食の見直し
- 旧東海道、地域の良さを地元の未来遺産に



- 本校のESD推進の構造化とプログラム評価に向けたプランニング
- 地域との協働によるコミュニティ・サステナブルマップ制作
- 持続可能な海水槽の完成などを進めています。

金沢の海へ 愛着をもち 「海の豊かさを守る」

横浜市立金沢小学校

金沢の海へ愛着をもち「海の豊かさを守る」

地域の特色を生かした「海の環境教育」の実践

【これまでの地域との取組】

- ワカメの植え付けと収穫、海苔づくり体験
- 海洋研究開発機構による深海についての特別授業と見学
- アマモメッセンジャーとして、国土交通省関東地方整備局へ訪問
- 海の公園でのふれあい活動(清掃活動、潮干狩り)

黒鯛稚魚放流体験



ワカメの収穫体験



海苔作り体験



海洋研究開発機構
による深海についての
特別授業と見学



アマモメッセンジャー
として、国土交通省
関東地方整備局へ訪問



※2015～2016年 バーナード初等アジア
ンパシフィックランゲージアカデミー
【サンディエゴ公立学校】との教育パートナ
シップ協定による交流

いつでも どこでも ESD ～持続可能性の教育～

横浜市立三保小学校

様々な教科等によるESDカリキュラムの構造化

カリキュラムマネジメントの取組から学びの評価へ
外部機関(大学)との共同研究へ

【これまでの地域との取組】

- 地元の農家の協力による「田んぼの学校」での稲作体験(5年生)
- 地域の自然を撮影し、写真展の開催やコンテストへの出展(6年生)
- 「新治市民の森愛護会」の協力による竹切りと竹のおもちゃ作り(2年生)

市民の森 竹切り体験



電気のはたらき



写真展「我がまち
ふるさと 三保」



生物のくらしと環境



田んぼの学校



※「森～里～流域～まち～
臨海そして世界へ」交流会から交流へ
(東京都江東区立八名川小学校等と)

きいて、きいて、
きいてみよう



豊かな体験は、 子どもの生きる力 につながる

横浜市立日枝小学校



「まちで体験し、人やもの、ことと関わって、
生きる力を獲得する」

子どもが“まち”で課題を見つけ、何度も出向いて情報収集し、
人と関わって課題を解決していきます

【これまでの取組】

- 大岡川的环境や生物の探究
- 吉野町駅を調査してPR
- 学校付近のパン屋さん・豆腐店等の協力による食品開発

めざせ 竹マスター!



学校の竹で「流しそうめん」、
「竹とんぼ作り」

太陽パワーで
省エネ生活



大切なエネルギーを自分たちの手で

5の3畑で
こんにやくライフ



自分たちで育てた芋でおいしい
蒟蒻にするには!?

めざせ!
おはやしユニバース



まちの例大祭では引っ張りだこの
お囃子隊

昭和村にて



夢をもち、 夢を実現する 子どもの育成

横浜市立戸部小学校



「まちを笑顔に」を実現し続ける子どもたち

各クラスで、子どもが地域から課題を見だし、地域と紡いで
単元を創っています

【これまでの地域との取組】

- 戸部130本植樹
- 学校の木の実
- 目指せ最高の動物園



仲間をふやせ!
横浜メダカ



絶滅危惧の地域のメダカをどう
保護していくのか

とべまちSMILE防災隊



目指せ、のげやマスター
は虫るいの み力を伝えよう



意外な人気か、
必然の人気か?

笑顔広がれ!
とべまちポ★スター



※2015年 復興支援「お菓子でつながれ!戸部と宮古」

ESDの視点を意識した 児童参加型授業 デザインの創造

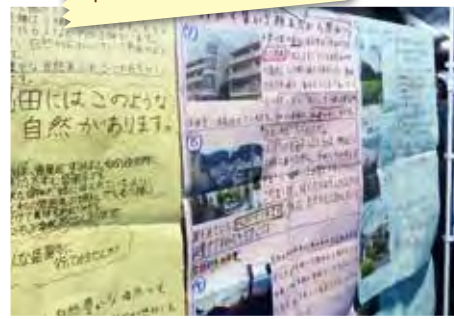
横浜市立恩田小学校



まず、自分自身が変わる。
それによって子どもが変わり、学校が変わり、
地域が変わる

- 恩田川的环境や生物の探究
- 恩田の自然を守るための取り組み
- 子どもと教師でつくる、「ハッピーになる」教室&学校づくり

恩田のまちの美しさを
未来につなげる
「恩田未来遺産」



恩田の「人」から生き方
を学び、未来につなげる
「恩田人物殿堂」

恩田小学校の歴史を未来に
つなげるESD授業研究会開催



これからの時代を
生きる学びの創出

横浜らしい、学校、 家庭、地域連携に基づく 防災教育の推進

横浜市立北綱島小学校



安全・安心の
マークづくり



卒業後、災害時に共助の中心として
地域に貢献できる力の育成をめざした
カリキュラムづくり

安全や防災に関する知識や理解を深め、自助共助の心情や態度
を養い、いつでもどこでも生き抜く力を育てる

学校にいる間におきた災害から子どもを守り抜くにはどうした
らよいか。子どもが8割の時間を過ごす家庭での被災に対して、
子どもにどのように自助力を育てるのか

大学の防災専門家を
迎える



子ども110番の家の
方にインタビュー



地域を見守り続ける
学援隊さん体験



地域密着の消防団に
学ぶ



せせらぎさわやかトンボ池 生き物にぎわうトンボ池 笑顔あふれる散歩道

横浜市立本郷小学校



地域の人々とのつながりを深め、
トンボ池の取り組みを続けていく

【これまでの地域との取組】

- 地域の方に支えられた稲作
- 地域の方とふれあう体験ブースのある～本郷ふれあいフェスティバル

「彩散歩道」…
水辺の向こう側
の小道を素敵
な散歩道にで
きないかな

「クリーンプロジェクト」…
生き物の住みやすい
ビオトープを目指し
て、生物を調べ、トン
ボ池の掃除をしてみ
ることから始めよう

「水の循環装置の再生」…
循環装置を調べて、流
れる水を復活させよ
う。これからは、止ま
らないように。ずっと
流れるといいな



六年生が取り組むテーマと
してとても良いものだった
と思います。今後も継続し
て取り組んで、素晴らしい
本小ビオトープが再生進化
していくことを願っています。
(保護者より)



自分に自信をもち 豊かに学び合いながら 生きていく子の育成

横浜市立羽沢小学校



子どもの自己肯定感を高める教育活動の
展開とESDの視点の導入による教育内容の
工夫改善

～地域教育力との連携と協働を豊かにする取組を通して～

地域の特徴を生かす

～キャベツづくりに取り組む地域の方から学ぶ～



まちとともに、まちを創る・守る

～地域清掃・地域防災訓練での連携～



ESD推進校の取組を、
「見直す・つなげる・変わる・地域で、世界へ」の
キーワードで振り返ってみましょう。



●どんなカリキュラムデザインをしてみたいですか？

●どんな学校にしてみたいですか？

ESDの研修や授業公開等に参加してみましょう

- ESDについてもっと知る、もっと考える機会になります。
- 大学やNGO／NPO、企業等とつながる機会にもなります。

- ESDの授業づくり講座を開催しています。
- ESD推進校の研修を公開しています。
- 推進校の活動にふれたり、ESDについて話し合ったりする「交流報告会」を開催しています。

平成29年1月21日にJICA横浜で開催された交流報告会では、ESD推進校の活動のポスターセッションを行いました。また、集まった学校の子も同士が5、6名ずつで「未来の横浜、未来の世界」について話し合いました。



▲▼ポスターセッション



▲こどもたちが記した未来の横浜



▲▼ホワイトボードを使ったワークショップ



横浜市教育大綱

(2015年9月策定)

- 「第2章 重点方針 ～“オール横浜”で進める横浜の教育～」
- 全ての子どもたちが、持続可能な社会について考えを深めながら、社会の担い手として生き生きと活躍できるよう、“オール横浜”で横浜の子どもを育みます。

【中央教育審議会 答申】

2016年12月21日 より(抜粋)

- 自然環境や資源の有限性等を理解し、持続可能な社会づくりを実現していくことは、我が国や各地域が直面する課題であるとともに、地球規模の課題でもある。
- 持続可能な開発のための教育(ESD)は、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念であると言えるが、そこで求められている資質・能力(国立教育政策研究所の整理によれば、「多様性」「相互性」「有限性」「公平性」「連携性」「責任性」といった概念の理解、「批判的に考える力」「未来像を予測して計画を立てる力」「多面的・総合的に考える力」などの力)は、総合的な学習の時間で探究的に学習する中で、より確かな力としていくことになると考えられる。

ESDは、
Education for Sustainable
Developmentの略で

「持続可能な開発のための教育」
と訳されています。

【文部科学省 ESDポータルサイト】より

現在、世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といった様々な地球規模の課題があります。

ESDとは、地球に存在する人間を含めた命ある生物が、遠い未来までその営みを続けていくために、これらの課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが自分にできることを考え、実践していくこと(think globally, act locally)を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

ESDの学習や活動で取り上げるテーマ・内容は必ずしも新しいものではありません。むしろ、それらをESDという新しい視点から捉え直すことにより、個別分野の取組に、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。また、それぞれの取組をお互いに結びつけることにより、既存の取組の一層の充実発展を図ることを可能にします。

ESDの10年を経て、次の目標 “GAP”～Global Action Programme～

1992年にリオ・デ・ジャネイロで行われた「環境と開発に関する国連会議」(国連地球サミット)では、「持続可能な開発」が中心的な考え方として「環境と開発に関するリオ宣言」や「アジェンダ21」に具体的に示され、現在の地球環境問題に関わる世界的な取り組みに大きな影響を与えることになりました。その中に、持続可能な開発の実現に向けて教育が果たす役割も記されています。

その後、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)」で当時の総理大臣が持続可能な開発における人材育成の重要性を強調し、「持続可能な開発のための教育の10年」を提唱しました。これを受け、同年、国連第57回総会決議により、2005年から2014年までの10年を「国連ESDの10年(DESD)」とし、ユネスコが主導機関に指名されました。

2014年、愛知で行われた会議で、次の5年のESDについての目標としてGAPが提唱されました。

★5つの優先行動分野

- ①政策的支援
- ②組織全体での取組
- ③教育者の育成
- ④ユースの参加
- ⑤地域コミュニティ

SDGs Sustainable Development Goals

- 国際連合では、2030年に向けた「持続可能な開発目標」を設定しています。
- 17の目標を達成させるための教育として、ESDが注目されています。
- 4「質の高い教育をみんなに」17「パートナーシップで目標を現実しよう」は、どの学校でも取り組んでいると思います。そこで、4と17を充実させつつ、残る15の目標も見てみましょう。
- 世界とつながっているか発想を広げるとき、学習がこの17の目標のどれかとつながっているか考えてみるとよいです。一つだけでなく、いくつかにつながってもよいです。
- 例えば、「防災」や「持続可能な生産と消費」に取り組んでいても、いくつか考えることができるはずです。



「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」では、共通テーマ「国際平和のために、自分がやりたいこと」を、SDGsの17の視点から考えるようになりました。

ここでもっと知ることができます

🔍 してみましょう!

- 文部科学省 ESDポータルサイト
- ユネスコスクールへようこそ
「教材ルーム」には、参考となる本や資料が紹介されています。
- ACCU ユネスコ・アジア文化センター
- ESD活動支援センター
- ASPU niv-net ユネスコスクール支援大学間ネットワーク
- +ESDプロジェクト (環境省)
- 国立教育政策研究所 ESDリーフレット
7つの能力・態度や、6つの構成概念、3つのつながりなどが、例示されています。
- 持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議(2014年11月名古屋)
「あいち・なごや宣言」は、文部科学省ESDポータルサイト中にあるESDユネスコ世界会議で見ることができます。
- ESD推進のためのユネスコスクール宣言(ユネスコスクール岡山宣言)
私たちの誓い
「私たちは、ESDの本質を理解するとともに、ESDの魅力を広く社会に伝えるため、児童生徒の変容、学校・地域の変容を明確に示します。」など

